

## シンガポール植物園での自治体職員研修 ～鹿児島県とシンガポールによる新たな交流の取組み～

シンガポール事務所

鹿児島県とシンガポールによる交流については、メールマガジンを通じてこれまで数回紹介してきました。今回はボタニックガーデン（シンガポール植物園）と鹿児島県による新たな交流の取組みを紹介します。

### 1 新たな交流のきっかけ～ボタニックガーデンでの研修生受入～

鹿児島県とシンガポールは、1982年から鹿児島・シンガポール交流会議を開催しており、当会議の合意事項に基づき、両国間で各種交流が進められています。

前回（第17回）は、2014年1月に鹿児島県で開催されました。会議では人的交流の促進を目的に、ボタニックガーデン（シンガポール植物園）への研修生受入れについて提案が出され、両国間で合意されました。これまでボタニックガーデンとは、展示・研究・花育への取組みについて情報交換等の交流を続けてきましたが、ボタニックガーデンでの研修生の受入れは新たな取組みとなります。

### 2 ボタニックガーデンの概要

ボタニックガーデンは、国立公園庁（National Parks Board (NParks)）が所管する植物園です。1859年に創立され、74ヘクタールの規模を誇ります。調査・教育・植物保全・娯楽の提供の4つを柱に、人々と植物をつなぐことを目指し、園芸や多種多様な植物の展示、教育プログラム、植物を主体に楽しめるエンターテインメント等を提供しています。毎年来園者は約400万人と、国際的な植物園として国外から多くの観光客を集めます。また園内では、朝早くからジョギングや体操をする姿、昼や夕方にはファミリーやカップル、子どもたちが楽しむ光景が見られ、地域に密着した植物園ともいえます。



ボタニックガーデンへの入場ゲート

### 3 研修内容

研修は1月19日～30日にかけて行われました。鹿児島県からはフラワーパークかごしまの職員がボタニックガーデンへ赴き、研修前半では各部門から業務内容について説明を受け、相互の現状について意見交換を行いました。研修後半では各部門にてボタニックガーデ

ンの職員と実際に業務を行いながらノウハウの習得に努めました。今回は研修の様子に合わせて、ボタニックガーデンの組織や業務について紹介します。

### （ボタニックガーデンの組織、業務内容について）

ボタニックガーデンは、①園芸・展示・イベント、②調査・保存、③サービス・管理、④教育、⑤シンガポールガーデンフェスティバル（SGF）と、5つのセクションが設けられています。

#### ① 園芸・展示・イベント部門

園内（園芸や樹芸、種苗などを含む）の維持管理・記録のほか、イベントの企画調整を行っています。

園内の維持管理に係る通常業務は主に3つに分かれ、園芸管理（水や肥料入れ、剪定など）、芝地の手入れ、園内清掃を行います。ペストマネージメント（害虫管理）については、政府から厳しいチェックがなされており、定期的に調査員が派遣され、ボウフラ等が発見された場合には罰金が課されます。そのため、来場者の少ない時間帯での農薬散布等により適切な管理を行っています。今回の研修では、これらの園内の維持管理に加え、屋上緑化・壁面緑化の管理についても、現場の様子を元にレクチャーを受けました。

また当部門では、クリスマスやチャイニーズニューイヤー、シンガポール建国50周年などには展示や飾り付けの企画調整を行います。研修時は2月のチャイニーズニューイヤーを控えていることもあり、慌しく装飾の作業を行っていました。



壁面緑化の管理に関するレクチャー

#### ② 調査・保存部門

採取植物の標本の管理、植物の培養や新種の育成のほか、園内にある図書館の運営を行っています。

標本を保管する施設では、空調管理が施された各部屋に1790年代から収集された標本が数十万点保存されています。また近年は、スキャナを利用した写真標本による保存・データベース化の取組みも進めています。調査活動については国内だけでなく、マレーシアやインドネシア、タイ、カンボジアなど国外でも積極的な調査活動を行っています。

新種の育成には、親となりうる種を選抜し掛け合わせたのち、培養し生育結果を得ますが、このプロセスは平均5年ほどかかります。中には10年~20年かかる場合も少なくないようです。研修ではラベルによる種の管理プロセスを学んだほか、育てられた苗を鉢に移植する実習を行いました。



植物の特徴に関する説明

### ③ サービス・管理部門

サービスセンターでの来園者対応や施設貸出し、オリジナルグッズ商品などのマーケティング、売店やレストランなどのテナント管理、セキュリティ管理などの業務を担っています。

来園者の反応はアンケートで把握しており、接客スタッフの対応についての内容が主となっています。返事が必要なものに対しては3営業日以内で返信するようにしています。

サービスセンターは園内に3ヵ所あり、ここではボランティアスタッフの管理も行っています。ボランティアスタッフは100名程度おり、ガイドとして園内のガイドツアーを支えています。ガイドとしてデビューするためには最低4日間の研修のほか知識や接客性のチェックがあり、そこで合格する必要があります。県の職員も実際にボランティアガイドツアーへ同行しましたが、ボランティアスタッフの資質の高さと熱心さに心を打たれたようです。

### ④ 教育部門

ボタニックガーデンでは教育に注力しており、世代別の教育プログラムが用意されています。特に子どもや学生向けのプログラムは充実しており、3歳～6歳、6歳～12歳、13歳以上の年代別に、各種ワークショップやガイドツアーなどのプログラムが提供されています。



小学生低学年向けの教育プログラムの様子

2013年のプログラムの提供数は646に上りました。プログラムへの参加者は計3万2,000人で、そのうち約8割は子どもの参加でした。シンガポールでは近年、屋外で遊んだり、学んだりする機会が少なくなっており、学校の先生からの利用要望も多く寄せられています。研修時に行われていた小学生低学年向けの教育プログラムは10名程度の少人数で行われ、自然と人間の関わりについて学べる内容となっていました。

### ⑤ シンガポールガーデンフェスティバル（SGF）部門

シンガポールガーデンフェスティバルは世界各国の著名な造園家やフラワーデザイナーの作品、各国の植物が展示されるイベントで、2006年の初開催を皮切りに、2年ごとに開催されています。

昨年8月には第5回となるフェスティバルがガーデンズバイザベイにて開催されました。各国のデザイナー等による50点以上の作品展示、25万点以上の植物展示が行われ、開催9日間で約30万人の来場者を集めました。次回（第6回）は、2016年の7月に予定されており、企画や調整が進められています。

#### 4 今回の研修を通して

毎年 400 万人が訪れるボタニックガーデンでは、多彩な植物の展示や幅広い教育プログラムの提供、訪れた人を楽しませるイベントなど来園者を惹き付けるための企画や取り組みを行っています。

研修全体を通して、県の職員とボタニックガーデンの職員とで積極的な議論が交わされました。特に、ボランティアの活用が充実している点や幅広く実施されている教育プログラムや各種イベントの実施プロセス、植物園の運営管理、マーケティング手法について学ぶ点が多く参考となったようです。また、ボタニックガーデンの職員からもそれぞれの植物園にある植物を相互に交換することについて提案が出されるなど有意義な交流となりました。今後も同交流が継続し、相互の協力関係が発展することが期待されます。



ボタニックガーデンの職員とのディスカッション

(三原所長補佐 鹿児島県派遣)

